

学校教育目標	自ら学び 人と関わり ともに高め合う 笹野台の子ども 自分の考えを表現する子を育てます。(知) 思いやりの心をもった子を育てます。(徳) 心身ともにたくましい子を育てます。(体) 様々な人や地域との関わりを大切にできる子を育てます。(公) 社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開) ～元気いっぱい やさしいいっぱい 笑顔いっぱい 心かがやく 笹小キッズ～				
	創立 56 周年	学校長 西山 久美子	副校長 宮村 俊	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 487 人 主な関係校: 希望が丘中学校 東希望が丘小学校 中尾小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	希望が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <情報活用能力>	希望が丘中学校 東希望が丘小学校 中尾小学校 笹野台小学校	課題に向き合い、主体的・対話的に学び続ける子ども 互いを認め合い、社会とのつながりを大切にできる子ども 目標に向かってチャレンジし、自信をもって行動できる子ども ・横浜市学力学習状況調査のデータ結果を分析・活用することにより、中学校区の子どもの特性を理解し、授業改善を図る。 ・児童生徒指導や特別活動、特別支援教育の情報交換を行う。 ・交流日には、小学校と中学校の授業を相互に見学し、教職員だけでなく子どもの声を取り入れ、授業力向上とよりよい子ども像の共有・育成を目指す。

中期取組目標	<p>○子ども一人ひとりの願いや思いを大切に、子どもが主体的・対話的で深い学びを通して資質・能力を育成することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年目は、子どもが自分の思いや考えを伝え合い、自他の違いを認め、よさを取り入れることで共に学ぶ楽しさ・意義を実感できる授業を目指します。 ・2年目は、自分の願いや思い、考えを互いに効果的に表現し、建設的な話し合いの場がもてるようにします。 ・3年目は、課題解決の過程で、自分を見つめ、何をどんな方法で学べばより学びが深まるか話し合いながら考え、よりよい選択ができるようにします。 <p>○社会や笹野台の人・もの・こととのつながりを意識し豊かな体験を積み重ねることで、共に課題解決に向かう姿勢を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通して、子どもの笹野台への思いを高め、地域と共に地域の課題解決に励むことで自己有用感がもてるようにします。 <p>○日常的な児童の見取りに加え、子どもの心身の状態・学習状況等のデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、心身のケアや学びの充実にかかします。</p>
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①学校教育目標実現に向けて、「自ら学習を調整する姿」、「ともに高め合う姿」の具体を共有し、そのためにどのような授業デザインをするのか、研究授業を通して検討する。②グループワークで活用できるようなA2版のホワイトボードやロイロノートや掲示物など、学習環境を整備し、どの学級でも学び合えるようにする。③単元全体と本時めあての確認と振り返りの時間の際は、ICTを効果的に活用し、子どもが自分の学びを選択・調整しながら学習を進められるようにする。
担当 A部会	
徳 道徳教育	①年間を通じたペア学年活動や学校行事から豊かな感性や情操を育むとともに、自他を尊重する態度を養う。 ②道徳科の授業では、意見交流など対話の他にICT機器を効果的に活用し、多面的・多角的な思考ができるようにする。
担当 B部会	
体 健康教育	①ロング昼休みに加え、長縄集会等の委員会からの提案を取り入れ、楽しみながら運動に取り組めるようにする。②日々の学習や診断・調査の分析をする機会を通して、児童が自身の課題に気づき、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を養う。③授業や委員会からの提案、学校保健委員会の取組を通して、より健康・安全に過ごしたいという思いをもって生活を送ることができるようにする。
担当 C部会	
公開 自分づくり教育 (キャリア教育)	①委員会からの提案や各学級・学年の取組で異年齢交流の機会を多く設け、継続して関わっていくことで相手意識をもったり自己有用感を高めたりできるようにする。②子どもたちが見出した課題解決に向けて外部人材や「笹小人材バンク」の活用を通して、人と関わりながら地域の一員として自分に実践できることを考え実践できるようにする。
担当 特活・総合	
いじめへの対応	①児童理解に関する月2回の情報共有を通して、いじめの未然防止と早期発見に努め、迅速な組織的対応を行う。②子ども会議を通していじめを自分事として捉えるために、各学級で話し合いや振り返りの時間を設ける。③年2回の生活・いじめアンケートやYPアセスメントを通して、児童の実態把握といじめを許さない風土づくりや安心して相談できる信頼関係の構築に努める。
担当 B部会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①メンターチームを中心に月1回程度の研修・研究授業を行い若手教員の育成に努める。②各部会や委員会等の年間計画を作成し、見直しをもった会議運営を図るとともに引継ぎ資料として活用する。③働き方改革のプロジェクチームを中心にチームス等のICT活用による業務の効率化を図る。
担当 メンター・B部会	
学校運営協議会 地域学校協働活動	①学校運営協議会や地域学校協働本部のメンバーによる授業参観等を通して児童の様子を共有し学校運営について検討を図る。②地域COを中心として登下校の見守りや学習支援を行っていく。③地域の材を積極的に活用し、地域と連携した教育活動を進めていく。
担当 B部会	
情報教育 GIGAスクール構想	①教育課程全体で育成を目指す資質・能力をより明確にし、目指す子ども像を教職員で共有する。②教育データの利活用によって、子ども一人ひとりの力を最大限に引き出すICT活用、指導力向上を図るために、教職員研修を行う。③子どもがICTを活用し必要な情報を収集・整理し個別最適な学びを自身が選択したり調整したりするとともに、協働的な活動も行えるよう推進する。
担当 C部会	
SDGs達成の担い手育 成(ESD)	①持続可能な社会の創り手育成推進のため、子ども一人ひとりがSDGsの17の目標を意識できるように、「総合的な学習の時間」を中心に教科・領域の学習を進める。②笹野台地域における教師、地域、子どものつながりを見直し、17の目標に沿った形で、笹野台地域と学校で社会や地域の課題解決を進めていく。③「はまっこ未来カンパニープロジェクト」等に参加し、地域の企業や人と関わる中で、子ども自身が自分の考えや意見、思いや願いで社会や地域がよりよくなることに気づき、その活動を続けることが持続可能な社会、地域につながることを実感できるように進める。
担当 A部会	
特別支援教育	①特別支援全体計画に基づき、特別支援コーディネーターを中心に支援が必要な児童に取り出し指導を行ったり、ケース会議を行うことで校内での支援や外部からのコンサルテーションを行ったりして、学習や生活の課題を克服できるようにする。②特別支援教育に関する教職員の研修を行い知識を深めるとともに、学びや環境のユニバーサルデザイン化の具体的な姿を示し、推進する。③不登校や様々な理由で授業に参加できない状況にある子どもにおいては、常に教育活動を見直し、保護者や子どもの思いを聞き寄り添いながら、ニーズに応じてオンライン授業や紙面のやりとり等、多様な学習参加の形を模索し提案する。
担当 B部会	